

## 会議議事録

会議名 : 第2回介護医療院転換プロジェクト会議

日時 : 2023. 8. 18 (金) 15:00~16:15

場所 : 病院本館2階会議室

参加者 : 土井 坂口 原田 菊地 吉田 市村 磯岡 (ホスト) 渡辺 (書記) 水野・佐藤 (欠席) (敬称略)

## 議事

1. WAM 介護医療院経営セミナー「やってよかった介護医療院、経営状況について」
2. 介護ロボット導入補助金について
  - ・ エスパーロでは、以前お試して数種の機器を使ってみたが、現場の職員からは前向きな反応はなく、また、費用が高額な事から導入を見送っている。
  - 今後補助金がどの程度出るかをみながら、導入による作業効率化、職員負担の軽減、人件費削減の可能性を考え検討してもよい (土井)
  - ・ 介護ロボット全国フォーラム、ケアテックス等に現場の職員を参加させ、利便性、導入効果などを体感させていく。
  - ・ 補助金は、老健から介護医療院へ転換したあとも返還する必要なく引き続き利用できる旨確認済み。
3. 事例集資料 老健からⅠ型への転換
  - ・ 老健の形態 ” 超強化型~その他型 ” のうち介護医療院に転換しているのはどの型か把握しているか (市村)
  - 公表されている資料からは情報収集出来ていない。多くは転換型老健 (元介護療養病床) と思われる。
4. Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅰ・Ⅱ型併設型の選択について意見交換
  - ・ 新設の場合、6か月の経過措置期間中に要件を満たす事ができれば認められるため、基本報酬の高いⅠ型でスタートしても良いのではないか (市村)
  - ・ 現場職員のスキルアップのため、少しずつ重度の方を受け入れて、対応に慣れるよう調整している (坂口)
  - ・ Ⅱ型から始め現場の意識や技術を徐々に上げていき、最終的にⅠ型に変更する方が抵抗が少ないと考える (菊地)
  - ・ 急に重度の方が多数入所され、医療的ケアが日常的に必要となると職員の離職につながるのではないかと。(原田)
  - ・ 必要人員として、現状、介護士の数は足りるが看護師の増員が必要。
  - ・ 紹介会社を利用した場合でも、看護師採用の可能性は比較的高いが、介護福祉士の方が難しい。
  - ・ 95床全てを介護医療院としなくても、減床し、看取りの際の家族宿泊室やその他コミュニケーションスペースとしても良い。減床することで必要人員も減らす事ができる。(土井)
  - ・ 施設長から職員に対し介護医療院への転換について説明を行ったが、質問・意見など何の反応もなかった。
  - ・ 本会議に現場の課長・係長を参加させた方が良い。(吉田)
  - 次回会議に参加できるようシフト調整を行う。又、次回会議の前に、これまでの議事内容を経営企画室から課長・係長に伝え、意見の聞き取りを行う事とする。
  - ・ 来年は24年度医療・介護ダブル改定の年に当たる。改定内容の情報収集が必要。
5. 今後のスケジュール。 (別紙)

以上